

# 十全看護専門学校

令和3年度一般入学試験（一次）

国語総合

令和3年1月25日実施

(注意) 解答はすべて解答用紙に記すこと。時間配分を考えて答えよう。誤字・崩し字は認めない。きちんと書こう。  
一次の文章を読み、後の問いに答えよ。(設問の都合上、一部表記を変更・省略している。)

(スアレス一家はキューバからアメリカ・フロリダへの移民家族。陽気で働き者の祖父母を中心に、家族皆精一杯仕事に勉強に努力し、力を合わせ仲良く暮らしてきたが、最近祖父の言動に異変が生じ始め……)

① おじいちゃんの脳は⑦委縮していく。おじいちゃんは変わっていく。そのことを、家族全員がわたしにかくしていたー。A怒りの⑧堂々巡りだ。

おじいちゃんが、⑨咳ばらいをした。「話があるんだ、プレシオサ(「可愛い子」という意のスペイン語の呼称)」「わたしは、じつとしていた。②キッチンからコーヒーポットの( a ) という音がし、午後のエスプレッソの香りが家中に広がっていく。」

「本当に、すまなかった。わしにも、なにが起きたのか、わからんだ。わけがわからなくなって、不安になって、急に……」

「お兄ちゃんから、事情は聞いた。なにがあったか、本当はわかっているんでしょ。もう、⑤うそをつかなくていいから。アルツハイマー病なんですよ」

おじいちゃんは、④ひざの上で両手を組み合わせた。その手は、少し⑥震えていた。「そろしい」少ししてそういった。

「打ちあけてくれればよかったのに。大きな秘密を、ずっと③抱えていたなんて。スアレス家では、いっさいかくしごとはしないはずでしょ!」

おじいちゃんが、ため息をつく。「ああ、そうだな」

腹の中でB怒りがふくれて、声が震えた。「なぜ、だれも打ちあけてくれなかったの? あんまりじゃない! 全員、一生、⑦きんしん処分にしたいくらいだよ」

「わしのせいだ。ほかのだれも悪くない。おまえにはぎりぎりまでかくしておくようにと、だいぶ前に、わしが約束させたんだ」

③平手打ちを食らった気分だった。おじいちゃんとは、これまでずっと、秘密はなかった。少なくともわたしは、そう思っていた。それなのに、わたしを仲間外れにしたのは、おじいちゃんだったなんてー。涙がこみあげてくる。おじいちゃんは、自分の手に視線を落として、つぶけた。「おまえとの時間を、できるだけ長く、楽しみたかったんだ。どうせ、運命にはさからえん。川に着く前に、おぼれる心配をしても、しかたなかるう?」

記憶を失うというのは、おぼれるようなものなのか? 考えただけで、体が震えた。いま、おじいちゃんは目の前にいて、いつものように話しかけてくる。けれど同時に、④少しずつ、消えていつているのだ。

ドミノ牌の缶を見つめるうちに、とつぜん、我を忘れるくらいのC怒りが、足元からせりあがってきた。ロリの説明が頭の中を駆けめぐり、ドミノが⑥心底憎くなる。いずれおじいちゃんは、点数の数え方や牌の合わせ方を忘れる。ルールをすべて、忘れてしまふ。

ロリはいっていた。じいちゃんはな、あと数年で、おれたちのことがわからなくなるかもしれない。自分自身のことだつて、覚えていられなくなるんだー。(中略) おじいちゃんの病気に治りよう法はない。この状態を永遠にとりのぞく薬もない。(中略) 怒りにまかせて⑧拳をふって、缶をぶつ飛ばした。ドミノ牌が床に散らばる音は、ガラスが⑨くだけた音に似ていた。

母さんとおばあちゃんが、⑩かけつけてきた。わたしがやったことを見て、母さんが二歩で近づいてきて、わたしの⑪かたをきつくつかんだ。「いいかげんにしなさい、メルシ。いますぐ、片づけなさい」

おじいちゃんが進みでて、小声でいう。「アナ、放しておやり」  
⑤わたしは、三人から後ずさった。「変わっていく人を見て、わけがわからずおびえるのは、こういう感じよ。ねえ、みんな、わかる?」

おじいちゃんが顔をクシャクシャにし、ゆつくりと近づいてくる。「おお、おお、こわかったろう」

わたしは大きく口をあけたまま、その場に立ちつくした。そうだ、b のだと、おじいちゃんの言葉を聞いた⑫しゅんかん、⑬合点がいった。いずれ、おじいちゃんがわたしを見て、だれだかわからなくなる日が、きつと来る。ほかのすべてのことといっしょに、わたしのこともわからなくなるー!。

幼いころのように、かたをすぼめて、⑭むせび泣いた。(中略)

ようやくしゃくりあげるまでにおさまると、おじいちゃんわたし頭の頭にキスして、いった。「わしも、こわかった。みんな、こわかったんだ。⑮だがな、わしらはスアレス家だ。きつと、力を合わせて、立ちむかえる」

問一 傍線部⑦の漢字は読みを、ひらがなは漢字を記せ。

- ㊦委縮・㊧堂々巡り・㊨咳・㊩うそ・㊪ひざ・㊫震えて・㊬抱えて・㊭きんしん・㊮心底・㊯拳・㊰くだけ・  
㊱かけつけて・㊲かた・㊳しゅんかん・㊴合点

問二 傍線部①のような症状の病気を何と呼ぶか、文中から一語選んで記せ。

問三 A怒りの堂々巡りとあるが、

- (1) ここには**二つの種類の怒り**が渦巻いている。わたしは何に対して怒っているのか、それぞれ簡潔に説明せよ。  
(2) 後のBCの**怒り**はそれぞれ(1)のどちらの怒りか考え、(1)の説明の下にBかCを選んで記せ。

問四 傍線部②「キッチンからコーヒーマットの(a)」という音がし、午後のエスプレッソの香りが家中に広がっていく。」にこころい、

- (1) 空欄aに当てはまる語を下から選んで、**数字**を記せ。 へ1ゴボゴボ・2ガタガタ・3ブツブツ・4コトコト  
(2) このような**音を表す語**を何と呼ぶか、**漢字**で正しく記せ。  
(3) ②の家の様子はこの時のわたしをどんな気持ちにさせたと思われるか、次から**当てはまるものを二つ**選び記号を記せ。

- ア いつもと変わらない穏やかな様子が、わたしに希望と勇気を与えてくれた。  
イ いつもと変わらない穏やかな様子が、よけいにわたしの苛立ちを募らせた。  
ウ いつもと変わらない日常が、祖父の病という変化を一層受け入れ難くさせた。  
エ いつもと変わらない日常が、わたしの気持ちを安らかにし落ち着かせてくれた。

問五 傍線部③「平手打ちを食らった気分」とはわたしのどのような気持ちか、どうしてそういう気分になったのかも併せて、分かりやすく簡潔に説明せよ。

問六 傍線部④祖父が「少しずつ、消えていっている」とはどういうことか、説明せよ。(同じ段落中から、わたしが特に祖父の何が問題だと感じているのか抜き出し記し、それがどういうことなのか考えて説明するとよい。)

問七 傍線部⑤この**三人**とは誰のことか、次の家族の説明図から選んで**記号**を記せ。また**兄とわたしの名前**を記せ。

- ア祖父      ウ父      オ兄(      )十七歳 医大を目指す私立名門校の奨学生  
イ祖母      エ母      カわたし(      )十一歳 私立名門校に奨学生として編入

問八 傍線部⑥「合点がいった」について、

- (1) 文中の**語意**を簡潔に記せ。  
(2) 何に「合点がいった」のか、わたしの気持ちを考え、空欄**b**に当てはまる文中の一語を抜き出し記せ。

問九 傍線部⑥「むせび泣いた」とあるが、

- (1) 「むせび泣く」とはどのような泣き方か、次から選んで**記号**を記せ。  
へア大声をあげて泣く、泣き叫ぶ      イ涙をさめさめと流す      ウ声や息をつまらせるほど激しく泣く  
(2) 「むせび泣く」わたしの気持ちを考えて分かりやすく説明せよ。

問十 傍線部⑦「だがな、わしらはスアレス家だ。きっと、力を合わせて、立ちむかえる」について、

- (1) ⑦には**祖父の今のどのような気持ち**が込められているか考え、併せて⑦に至るまでの**祖父の気持ちの推移**を文章から順に読み取り、1例を参考に、自分の推量や言葉も加えて234を説明し、表を完成せよ。  
1 自分でも説明のつかない言動が増える。・・・(1例 自分が何が起きているのかわからず不安、混乱、動揺)  
2 家族に連れられ診察を受け、病名を告げられる(問題文では省略)・・・(2)  
3 孫娘にだけはまだ知らせないよう家族に頼む。・・・(3)  
4 ⑦孫娘にも打ち明け、気持ちを話し合う。・・・(4⑦)  
(2) ⑦の今の祖父の気持ちを生み出したものは何だろうか、文章から自分なりに考えて記せ。裏面に続く 2

問十一 今生きている私たちは、いずれ病を得、老い、死を迎える。老いることなく若くして死ぬ場合もある。あなたは「死」について自分のこととして考えたことはあるか？ 何を大事にして、どのように生きたいと思うか？ 今の自分の思い・考えを三百字程度で自由に記せ。（ただし原稿用紙の書き方は守ること）

二 次の四字熟語の読みを記せ。

- ㊦生老病死    ㊧有為転変    ㊨不易流行    ㊩万物流転    ㊪諸行無常

三 次のA～Cの意味の語句を後から選んで数字を記せ。①～⑤の漢字は読みを、ひらがなは漢字を記せ。

二〇二〇年、**A世界保健機構**が**B世界的大流行**と認定したCOVID-19（新型コロナウイルス）**①かんせん**

症**②**の流行に各国は**③**検疫を強化し、予防やワクチン開発など対策に懸命であるが、**④ぎせい**者は増え続け、

一部で**⑤**いりよう逼迫・**⑥**ほうかいが起き、**C**治り**⑦**の必要性・優先順の選別をせざるを得ない現場も出た。が

台湾のように過去を教訓に流行の抑え込みに成功した国もあり、今後も収束に向け努力が必要とされる。

**A**～**C**へ1パンデミック    2エピソード    3WFP    4WHO    5WHS    6トリアージ    7トリートメント

令和三年度入試問題（一般一次）のテーマ

一 家族の病・老いという変化をどう受け入れ生きて行くか。 87点

出典 メグ・メディナ作 橋本恵訳「スアレス一家は、今日もにぎやか」あすなる書房 二〇一九年十二月刊  
基本的な読解力・国語の知識（漢字・語彙等）・表現力を問う。

主題を読み取り、考え、今の自分の思いを書く。

二 一に関連して変化に関する四字熟語。 5点

三 時事問題として新型コロナに関する語句。 8点

解答

一 文で答える問題は、すべて同趣旨可。解答内容の不足は減点。首尾一貫しないものは零点。

問一 各1点 アいしゆく イどうどうめぐ(り) ウせき エ嘘 オ膝

カふる(えて) キかか(えて) ク謹慎 ケしんそこ コこぶし

サ碎け シ駆けつけて ス肩 セ瞬間 ソがてん

問二 1点 アルツハイマー病

問三 完全正答各4点 (1)・愛する祖父が病気によって変わってしまってしまったことへの怒り。 (2) (C)

・自分にだけ病気のことを隠していたことへの怒り。

(B)

問四 (1) 2点 a 1 (ゴボゴボ) (2) 2点 擬音語 (3) 完全正答3点 イウ

問五 4点(理由を含める) 今まで一切隠し事や秘密のなかった、誰よりも信頼していた祖父がわたしに大事なことを隠していたという衝撃、裏切られた思い、許せないという怒り、悲しみ。

問六 4点 記憶を失うこと。祖父の記憶が失われる消え去ることで、祖父の人生や、祖父という人格、わたしと共に過ごした時間まで消えてしまう。

問七 (1) 完全正答2点 ア(祖父) イ(祖母) エ(母) (2) 各1点 兄(ロリ) わたし(メルシ)

問八 各2点 (1) わかった 納得した 理解した (2) b こわかった

問九 (1) 2点 ウ

(2) 4点 愛する祖父がアルツハイマー病によって失われていくことの恐怖・悲しみ。それを止めることができないう怒り・絶望。

問十 各4点 (1) 2 自分の記憶が消えていくこと、自分が変わっていくことへの恐怖・悲しみ・絶望。

3 逃れられない病(運命)なら、せめて何もかもわからなくなるまで愛する孫娘と過ごす時間を楽しみたい。孫娘に悲しい思いをさせるのをできるだけ先延ばしにしたい。

4 ⑦ (これまで懸命に生きてきたように、家族力を合わせて、)病を受け入れ、立ちむかって行くことと決意。

各4点(2)・これまで築き培ってきた家族の愛と信頼(家族の結びつき・絆)。

・これまで困難に打ち勝ってきた人生の努力への自負・誇り。

問十一 14点 必ず訪れる自分の「死」を意識したことがない学生も多いと思われる。これから人の「生死」に関する看護師を目指す者として、できるだけ考えてもらいたい。が、書かれた考えが深くなくても、今の自分の「死」「生」についての正直な気持ちを書けていけばよいとする。「生きた」だけについて書いて「死」について触れない文章は減点。内容の矛盾、表記表現のミス(誤字脱字・使つべき漢字が書けてない・文体の不統一・主述が呼応しないなど)は減点。三百字「程度」の指示なので、字数の不足・超過は認める。

二・三各1点

二アしよろうびょうし イういてんぺん ウふえきりゆうこう エばんぶつるてん オしよきょうむじょう

三 A 4 (WHO) B 1 (パンデミック) C 6 (トリアージ)

① 感染症 ② けんえき ③ 犠牲 ④ 医療 ⑤ 崩壊

# 十全看護専門学校

令和3年度一般入学試験（二次）

国語総合

令和3年3月4日実施

次の文章は、朝日新聞 2020年2月21日(金)の記事である。味読して、解答用紙にある設問に答えよ。

一語一会 大学の先輩からの言葉

それは考えてねーじゃん。悩んでいるだけじゃん

解決策 見つけ出して進む 作家演出家 鴻上尚史さん

①あの言葉をかけてくれたのは、誰だったのだろう。

早稲田大3年、演劇に力を注いでいた頃だ。大隈講堂の東広場。たまたま一緒にいた先輩に「鴻上、これからどうするの?」と尋ねられた。

当時、自ら劇団を立ち上げようと考えていた。ただ、大学の劇団サークルがプロ化した前例はなく、食べていけるかどうか不安だった。そう打ち明けると、先輩は言った。

「それは考えてねーじゃん。悩んでいるだけじゃん。」

②悩むとは。漠然とした不安に流され、ぐるぐると同じ所を回っているだけの状態だ。それでは、人生は変わらない。

③考えるとは。具体的に検討することだ。劇団を立ち上げるなら、似た団体が存在していないか、何人の観客に入ってもらい必要があるのか。そのためにはどうすればいいのか。状況を一つ一つ整理し、するべきことを頭に浮かべる。

④目から鱗が落ちた。そうか、自分は悩んでいただけだったんだ。

その後、22歳で劇団を⑤はたあげ。①あの言葉を人生の⑥ししんに、演出家として⑦じっせきを積み上げてきた。俳優の演技に不満があつても、頭を⑧かかえるのではなく、解決策を考える。椅子に座って演技したらどうだろう。⑨いしょうを変えたらどうか?と検討する。⑩それが演出家の仕事だ。

相談を受ける側にもなった。俳優やスタッフの悩みにも寄り添い、今は朝日新聞出版のニュースサイトAERAdotで読者の悩みに答える連載「ほがらか人生相談」も担当する。日本の同調圧力の強さや、その場を支配する「空気」との付き合い方について伝えている。

相談者の中には、かつての自分と同じように、悩むだけで考えていない人がいる。「悩むことと、考えることは、違うものだよ」。そう伝えると、きょんとする。若者ほどそうだ。考える⑪くんれんを受けてこなかったからだろう。

先輩の顔も名前も思いだせない。演劇サークルの先輩だと思うが記憶がない。⑫じっさいする人だったのか、夢でも見ていたんじゃないかとも思うけれど、⑬「教え」だけは自分の中にとどまっている。自分の言葉もそんなふうに残って、悩みの解決へのヒントになればいい。

(岩井建樹)



「気合やガッツで乗り越えられないこともある。平静を保ち、考えるのが大人」=外山俊樹撮影

1958年、愛媛県新居浜市生まれ。新居浜西高卒業。早稲田大学在学中に劇団「第三舞台」をはたあげ。現在は「KQKAMI@network」と「虚構の劇団」を中心に活動。著書に『不死身の特攻兵 軍神はなぜ上官に反抗したか』など、多数。

